

小3 「もうどう犬の訓練」

研究主題 「主体的に自分の思いや考えを表現できる子どもの育成」
—国語科における単元を通した言語活動の工夫を通して—

日立市立櫛形小学校 渡部 恵美

I はじめに

(1) 他の単元との関連

1 学期の単元に「しぜんのかくし絵」がある。目的や必要に応じて情報を収集し、内容を短くまとめて活用する力をつけることにつなげるために、大事な言葉や文に着目して段落ごとに書かれている内容を読み取ることをねらいとした。児童たちは、同様の流れの学習を繰り返すことによって、記述から答えを探してサイドラインを引こうとする意識が高まった。また、話し合いの際の司会者を順番に行わせたことによって、後に司会を担当した児童は上手に話し合いを進められるようになり、時間を意識し、手分けして短冊黒板に書く様子が見られた。

学習後、「かくし絵図鑑」を作るために他の昆虫を本や図鑑で調べていた時には、「この虫は、ゴマダラチョウと同じ（擬態の）仲間だ。」などと、仲間分けをしている様子が見られた。保護色についての理解が深まったとともに、学習したことを生かしながら、自分の図鑑作りを楽しんでいた。

しかし授業を行う上で、特に書く指導には個人差が大きく指導の難しさを感じた。そのため、グッドモデルやリード文を示すなどの手立てをし、活動する時間を十分に取るとともに、互いの文章を推敲し助言し合う時間をとりたいと考えた。

(2) 学年での取り組み

① 児童が使用する資料の見直し

本教材文は、盲導犬の訓練について、盲導犬の定義や役割、訓練の段階を、分かりやすく順序立てて説明している。そのため、大事な言葉や文を見つけやすく、段落ごとの内容をとらえやすい。

しかし、リーフレットを作る際に使用する一般の図書資料は、順序立てず羅列してあったり、絵や写真の周りに小さく説明してあったりするなど、紹介する内容に合わせて取捨選択してまとめなければならない。

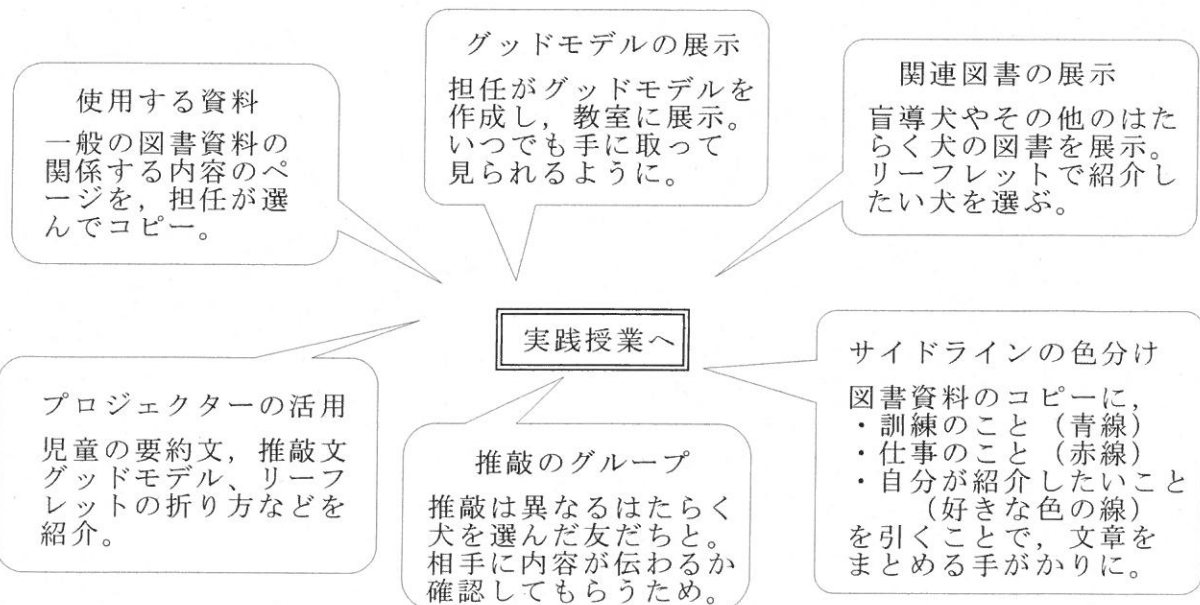
はじめは、一般の図書資料を使用せず、図書やインターネット等を利用して担任が文章にまとめ、それを使用させようかと話し合った。しかし、今後児童たちが使用していくのは一般の図書資料であるため、担任が内容を選び、関連するページのみをコピーして与えることにした。

② 指導案の見直し

学年でプレ授業を行うことで、上手に要約文を書けている児童の文章を他の児童に紹介するために、プロジェクターを使用することにした。要約文だけでなく、推敲のモデルやグッドモデル、リーフレットの折り方を紹介する際にも活用することにした。

また、学習計画表を作成し、学習の見通しがもてるようにした。振り返りを記入することで、本時の自分の学習を見直し評価し、次時に行うことを確認できるようにした。

★プレ授業の反省から★



II 研究の仮説

単元を貫く言語活動として「リーフレット」を作る活動を位置付けた。リーフレットを作成することは、限られた紙面の中で、目的に応じて「どの内容をどのようにまとめるか」を考えることである。大事な言葉や文を見つけて要約することが必要となるため、リーフレット作りを行うことで、目的や必要に応じて情報を収集し、短くまとめて活用する力を実現することができるのではないかと考えた。

III 実践事例

1 学習指導案

本時の研究の仮説（テーマ）

「主体的に自分の思いや考えを表現できる子どもの育成」
—国語科における単元を通した言語活動の工夫を通して—

- (1) 単元名 目的や必要に応じて文章を引用したり要約したりしながら、リーフレットを作ろう (教材名「もうどう犬の訓練」)
- (2) 目標
- 働く犬について関心を持ち、いろいろな資料を進んで読み、調べようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
 - 目的に応じて、中心となる語や文に注目し文章の要点や細かい点に注意しながら読み、書かれている内容を要約している。(読むこと)
 - 本や資料を読んで知りたいことを調べ、リーフレットに必要な情報を集めている。(書くこと)
 - 文章を読み、指示語や接続語の役割を理解している。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(3) 単元について (男15名 女16名 計31名)

① 児童観

児童たちは2学年での「ビーバーの大工事」で、大事な言葉や文に気をつけながら文章を読む学習や、1学期の「自然のかくし絵」で段落ごとに書かれている内容を正しくとらえながら読む学習をしてきている。また、普段から教科書の文章から大事な言葉や文を見つけ、叙述に即して考える学習を繰り返し行っている。しかし、教師が着目の観点を示してやらないと気付けなかったり、適切に文を書き抜けなかったりする場合が多い。ほとんどの児童は文章をさらっと読み、内容を分かったつもりになっているが、聞き返してみると思い違いや理解できていないことも多い。これは、大事な言葉や文に着目して、しっかり意味を考えながら、時には疑問を持って文章を読んでいないからだ考える。さらに、大事な言葉や文を使いながら、書かれている内容を短くまとめる力も十分についておらず、書くことに苦手意識を持つ児童もいる。

事前調査

(平成28年 10月12日 31人)

	読むこと	書くこと	漢字の練習	言葉
1 好きな学習	6人	9人	10人	6人
2 苦手な学習	8人	12人	2人	9人
3 書くことが苦手な理由 (複数回答)	・何を書いていいかわからない6人 ・大変、疲れる6人 ・遅いから2人 ・間違えるから2人			

② 教材観

本教材は、盲導犬の訓練について盲導犬の定義や役割、訓練の段階を順序立てて説明した文章である。「どのような訓練が行われるか」ということに即して説明しているため、大事な言葉や文を見つけやすく段落ごとの内容をとらえやすい。また、「1才になると」「さいしょは」「次は」「仕上げの1ヶ月」といった、順序や時期、期間を表す言葉に着目することで、訓練の内容を容易に読み取ることができるようになっている。初めて要約を学習する児童に適した教材だといえる。

③ 指導観

本単元では、まず、学習の最後にリーフレットを作る学習を行うことを告げる。絵や折り方を工夫したグッドモデルを示すことで、「作ってみたい」と学習への意欲が高まるに違いない。学習前半は、既習事項を生かし題名とのつながりのある言葉や繰り返し用いられる言葉などに着目させ、教材文の内容を段落ごとに正しくとらえさせていく。また、要約の仕方を知り、目的に応じて要約する活動を繰り返し行っていく。後半は、盲導犬についてもっと知りたいと思ったことや他の働く犬について本や資料を使って調べ、大事な言葉や文を見つけて線を引き、分かりやすく書き換えたり、言葉を補ったりするなど要約し、互いに推敲し合ってリーフレットにまとめる。誰に何を伝えたいのかを明確にさせることで、内容を主体的に読み、目的に応じた要約の仕方を身につけることをねらいとしている。

(4) 単元への評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・働く動物につ	・目的に応じて、大事な言葉や文を	・知りたい事柄につ	・重要語句や意味の分か

いて関心を持って読み、進んでいろいろな資料を読んで調べようとしている。	見つけながら読んでいる。 ・大事な言葉や文を押さえ、書かれている内容を要約しながら読んでいる。 ・文章を読んでもっとくわしく知りたいと思ったことを知るために、内容が関連する他の図書を探して読んでいる。	いて、図書や資料を読んで調べ、ワークシートに書く事柄を考えている。 ・調べて分かったことを整理し、要約して書いている。	らない言葉を国語辞典を使って調べている。 ・題名に関連する言葉や接続語、文末表現を手がかりに大事な言葉を見つけ、文章の要約を考えている。
-------------------------------------	--	--	---

(5) 指導計画 (12時間取り扱い・・・本時第3次第3時)

	主な学習活動・内容	評価規準
第1次 1	・「てびき」を読み、学習の進め方とリーフレットについて知る。	・働く犬に関心を持ち、リーフレットを作ること に意欲をもって取り組もうとしている。 (発言・観察)
第2次 5	・教材文を読んで、大事な言葉や文を見つけ、書かれていることを要約する。 ・教材文と平行し、働く犬についての本や資料を読む。	・大事な言葉や文を手がかりに文章を読み取り、言葉を補ったり書き換えたりしながら内容を要約してまとめている。(ワークシート・観察) ・教材文を読んで、指示語や接続語の役割を理解している。(ワークシート・観察)
第3次 5	・働く犬について、くわしく知りたいことを調べ、下書きと推敲をする。(本時) ・表紙作りや挿絵を工夫するなどをし、リーフレットを完成させる。	・調べて分かったことを整理して、紹介するために大事な言葉を落とさないように要約している。(ワークシート・観察) ・下書きの文章を読み合い、目的に応じて分かりやすく要約できているか確かめ合っている。(発言・観察)
第4次 1	・友達とリーフレットを読み合い、感想や意見を伝え合う。	・目的に応じて分かりやすく要約できているか確かめ合っている。(発言・観察) ・大事な言葉を落とさないように要約することができたか、文章を要約するためにはどのようなことに気をつければよいかを振り返っている。(発言・観察)

(6) 本時の指導

①目標

- ・調べて分かったことを整理して、大事な言葉や文を生かして要約することができる。

②準備・資料

- ・ワークシート
- ・図書資料のコピー
- ・国語辞典
- ・プロジェクター

③展開

☆言語活動を充実させるための手立て

学習活動・内容	指導・支援の手立てと評価(○・・・評価)
1 本時の学習課題を確かめる。 はたらく犬について調べ、リーフレットの下書きをしよう。	・調べ学習の見通しをもたせ、本時の学習内容(調べる・要約する・推敲し合う)を提示し、確認する。
2 要約の仕方について確認する。 「ようやくのたつ人わざ」 1 だいたいな言葉や文を見つける。 2 内ようを短くまとめる。 ・だいたいな言葉や文を使う。 ・分かりやすく書きかえたり、言葉をおぎなったりする。	・「ようやくのたつ人わざ」を読み、確認する。 ・教材文の要約の仕方を例示しておき、活動中もやり方を思い出せるようにする。
3 調べて分かったことを要約する。 ・同じ資料を選んだ同士でグループを組む。 ・大事な言葉や文に線を引く。 ・ワークシートに要約しながら書く。	・文に線を引かせたり印をつけさせたりしながら、書かれている内容を自力で要約できるように支援する。 ・グループで助け合っても良いことを告げておく。 ・意味の分からない言葉は、国語辞典を使って調べ、違う言葉に書き換えてもよいことを告げておく。 ・文章を丸写ししてしまう児童には、文章をじっくり読み、大事な言葉を見つけるよう促したり、接続語や文末表現に注目し大切な言葉や文を確かめたりするように助言する。 ○調べて分かったことを整理して、大事な言葉や文を使いながら要約している。(観察・ワークシート)
4 要約した文章を推敲し合う。	

- ・異なる資料を選んだ友達と、書いた文を互いに読み合い、推敲し合う。
- 「すいこうのたつ人わざ」
- ・知りたいことの答えになっているか。
- ・同じことのくりかえしはないか。
- ・分りにくいところはないか。

5 学習の振り返りをし、次時の学習について知る。

- ・次時の学習のヒントとなるような要約文をプロジェクターで写し紹介して、要約のポイントをほめながら確認する。
- ☆ 友達の文章を読むことによって、自分の文章を振り返り、学習に生かすことができるようにする

・次時は下書きの最後の時間であることを知らせておく。

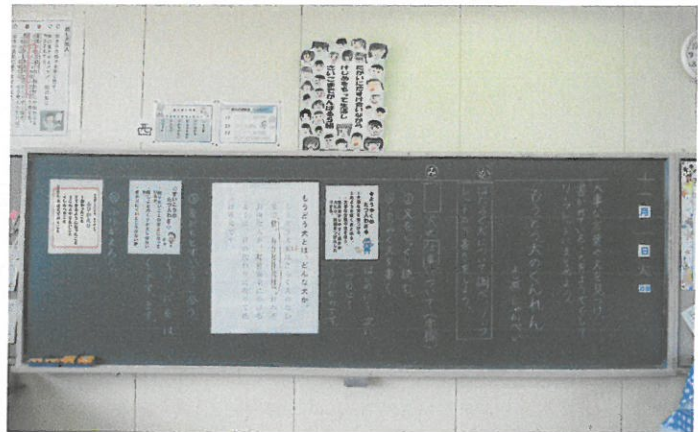
④ 指導の実際

ア 導入

他の学級でプレ授業を行った反省で、「要約文を書く」、「互いに推敲し合う」、「推敲し感じたことを伝え合う」と活動することが多いため、時間の確保が難しいことがあげられた。授業公開時はリーフレット下書きの2時間目であるため、課題の確認や学習の流れなどの確認はなるべく短く話し、活動時間を長くとれるように心がけた。

学習のはじめに行った教材文の要約の例(資料①)や、要約の仕方(資料②)、推敲の仕方(資料③)、振り返り(資料④)の掲示物を常に例示しておく、活動中もやり方を思い出せるようにしておくことで、毎時間説明するところを省いた。

その結果、要約文を書く活動を20分間、互いに推敲し伝える活動は10分の時間をとることができた。



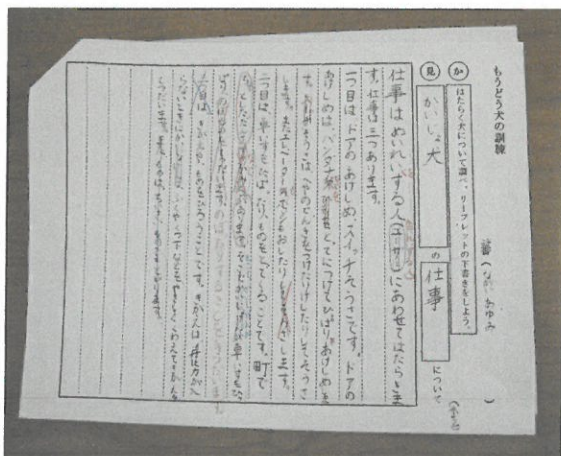
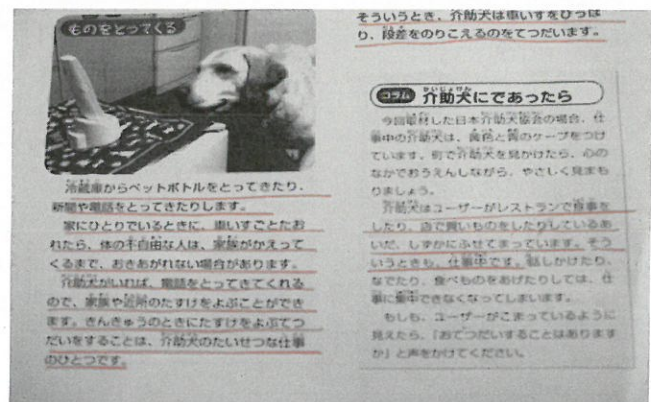
イ 展開

① 図書資料の工夫

リーフレット作りでは、一般の図書資料を、担任が内容を選び、関連するページのみをコピーして使用させた。リーフレットには、教材文と同様に、訓練の順序や様子、仕事の内容に、友だちに紹介したいことを一つ加えて書くことにした。

週1時間の「図書の時間」を使って資料を読み込み、訓練のことは青線、仕事のことには赤線、紹介したいことには好きな色の線、紹介させておくことによる、文章をまとめる際の手がかりとなるようにした。

資料の絵や図を参考にしたり、クイズを作成したりと工夫が見られ、また、友だちに紹介したいことを自由に選ばせたことで、それぞれの児童オリジナルのリーフレットとなった。



② 教師の働きかけと場の工夫

教師の働きかけとしては、上位の児童に対しては、分かりやすく項目立てたり、言葉を補ったりしながら、内容を短くまとめることとした。低位の児童には、机間指導をしながら、資料の内容を一緒に読み、本時の学習課題の内容であればそのまま写すよう声をかけた。

活動のグループは、同じはたらく犬を選んだ友だち同士とし、3〜4名とした。

これにより、なかなか書くことが進められない児童も、周りの友だちの様子を見たアドバイスを受けたりしながら進めようとすることができたことは、大きな成果だった。

推敲は異なる犬を選んだ友だちと行った。これは、図書資料の内容を知らない友だちにも伝わる文章が書けているか、分りにくいところはない

か等を互いに確認できるのではないかと考えたためである。気付いたことは赤で書き加えたり、理由や説明を伝え合ったりする様子が見られた。

③ プロジェクターの活用

上手に要約文を書けている児童の文章を他の児童に紹介するために、プロジェクターを使用することにした。要約文だけでなく、推敲の上手な例やリフレットのモデル、リフレットの折り方の例を紹介する際にも活用した。グッドモデルを見ることが、振り返りに「やり方が分かった。」と書いたり、次の文章に生かしたりする児童が見られた。

もうどう犬とは、どんな犬か。

もうどう犬は、**たつ**はたらく犬のなか
まで、**もう**どう犬は、目の不
自由な人が、町を安全に歩ける
ように、目の代わりになって助
ける犬です。

資料① 要約の例

◆ようやくの
たつ人わざ◆

① 大事な文を見つける。
② 内ようを短くまとめる。

- ・ 大事な言葉や文を使う。
- ・ 文を分かりやすく書きかえたり、言葉をつけたしたりする。



資料② 要約の仕方

◆すいこうの
たつ人わざ◆

- ・ 知りたいことの答えになつて
いるか。
- ・ 同じことのくりかえしはない
か。
- ・ 分かりにくいところはないか。



資料③ 推敲の仕方

★学習したことを、まとめよう。

ふりかえり

- ① 分かったこと
- ② できるようになったこと
- ③ こんどやりたいこと
- ④ しらべること
- ⑤ おぼえておくこと

資料④ 振り返り

IV 研究の成果

仮説について

- 様々な単元の中で意識して交流する場面を取り入れることによって、学級全体での交流ではなかなか意見が言えず、常に聞き役になっている児童も、自分の考えを友だちに説明したり友達の考えに質問したりする姿が見られるようになった。
- 個人の差はあるが、資料を適切に書き換えたり言葉を補ったりして、短くまとめて活用するスキルが身に付いてきた。児童の振り返りに「推敲をしてくれたので、リーフレットづくりが楽になった。」という感想が見られ、推敲の大切さも伝えることができた。
- 書くことを苦手を感じている児童も、リーフレットをつくることを楽しく行うことができた。



V 今後の課題

- 使用する資料は、今回は図書をコピーしたものを使用したけど、自作の資料の方がよかったのか、使用する資料を考えたい。
- 推敲は異なる資料を選んだ友だちと行わせたが、授業後の話し合いで同じ資料を選んだ友だち同士の方が、内容へのアドバイスができるのでは、との意見が挙がった。授業で双方を比べてみるとよかった。

参考文献：「小学校学習指導要領解説 国語編」文部科学省 平成20年8月